

ヒラメ種苗5000尾放流

日釣振神奈川県支部

横須賀市長井町地先に



子供たちがヒラメ種苗を放流

【横須賀】日本釣振興会神奈川県支部は11日、横須賀市長井町地先の海に合計5000尾のヒラメ種苗を放流した。県裁

培漁業協会が愛知県の養殖業者から購入し、同支部に供給した全長8・9センチに育った稚魚だ。このうち4000尾

は、午前中にJF長井町漁協所屬の漁業者が同町・井尻漁港岸壁で放流。残りの1000尾は同市内の地域おこし団体「地域の未来を考える会」が行った「荒崎海岸クリーンフェスタ2017」に参加した親子連れ約100人のうちの子供たちが同海岸に放流した。

放流に先立ち、同協会の今井利為専務は「きょう放流したヒラメは3年自頃には長井町漁協の定置網や刺網で獲れる大きさに育つので食べてください」と呼び掛けた。

引き続き子供たちは、未来を考える会、日釣振同県支部、栽培協会職員らの手渡しリレーでバケツに入った稚魚を3台の放流台を使い放流した。

同日、長井の中央水産研究所横須賀庁舎でも、県民らに海や海の動植物に親しんでもらおうと一般公開を行った。同庁舎が発見した「アラサキガングゼ」やニホンウナギの研究成果などを紹介するパネルを展示。また、タッチプールでのカニ釣りコーナーが子供たちに大人気だった。